

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1－89		
自己評価作成日	平成25年12月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170500389-00&P_efCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人となつた会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性や能力に合わせて、作業療法としてガーデニングや、認知予防の為の手先を使った折り紙(立体)や体力作りとして、ホームの犬の散歩等をして近隣とのふれあいを大切にしています。このホームは医院と併設している為24時間医師が常駐しており、安心して、生活が送れます。職員は常に利用者と共に寄り添い意志を尊重をし明るく、楽しい雰囲気作りをする様努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、コミュニケーションを大切にしながら、利用者の力を活かす支援に取り組んでいる。利用者と一緒に散歩に出かけて、近隣の人と顔馴染みとなり、声をかけてもらったり、花や野菜の苗をもらい育て方を教えてもらったりしている。駐車場をお祭り御輿の会場や資源回収の場所として開放し地域との交流の場所に提供するなど、事業所の理解を深め地域に受け入れられるよう努めている。介護計画作成時には、必ず利用者・家族・医師・職員が参加するサービス担当者会議を開き、関係者から多くの意見や提案・要望を取り入れるようにしている。医院に併設しているため、医師や看護師の協力がいつでも得られ、利用者・家族の安心となっている。市主催の「近隣ケアの集い」に参加したり、市担当者から依頼されて入居者を受け入れるなど、行政との協力関係も築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し近隣との交流を深めるを理念に挨拶や会話を通じて親近感を持って頂けるよう実践している	全職員で話し合って理念を作り上げ、ミーティングで日々のケアを振り返り理念の共有に努めている。利用者とのコミュニケーションを大切にして、地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会などに加入して、祭りなどの行事に参加そ地域の一員として溝掃除活動にも積極的に参加している。	地域行事や資源回収の場所に駐車場を提供し、地域との交流の場となっている。利用者と一緒に散歩に出かけ近隣の人と顔馴染みになり、花や野菜の苗をもらい育て方を教えてもらうなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を活かし、自治会や民生委員さんを通じ近隣ケアの集いがある祭りに、認知症への理解を求めて支援をお願いしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催してヒヤリハット等の問題点を話し合い、サービスの向上に活かしている。	会議には自治会長や民生委員・行政が参加し、地域などの情報を得る機会としている。利用者・家族に呼びかけているが出席がなく、会議は事業所の報告のみのことが多い。	家族から、次回の会議への出席の承諾は得られたが、引き続き参加が得られるよう働きかけると共に、参加者から多くの意見や提案を得てサービスに活かす取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉協議会の方たちと連絡を密にし、色々相談や要望をしたり、指導を受けたりして課題解決を図っている。	市主催の「近隣ケアの集い」に参加したり、担当者からの依頼で入居者を受け入れたりしている。事業所からも困難事例を相談するなど、日頃から連絡を取りあい、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り、取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承して頂き短時間のみ行う場合もある、玄関の施錠は利用者の安全を守るためやむを得ず施錠するときもある。	全職員は言葉による拘束にも注意し、身体拘束をしないケアを理解して実践している。入居者の状態や行動パターンを見極め、一緒に散歩に出かけている。付き添えない時のみ、一時的に門扉を施錠することがあるが、庭やユニット間は自由に出入りすることが出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がなされていないか、職員間で報告を密にして見過ごされる事がない様全職員で防止徹底を図っていく		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、市関係と相談をして、対処しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来たときに、一通りの説明をして、それで納得した上で入所の申し込みをして頂きます。改定の場合は文書にて送付させて頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置して気軽に意見や要望を伝えることが出来る関係作りに努めています又行政機関等を利用して苦情を表せるようにしています。	意見や要望を言いやすい雰囲気を作り、居室でゆっくり話を聞いている。利用者より、床に車いすが引っ掛かるような感じがすると の意見があり、床材を張り替えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日1回ミーティングを開き意見を反映させている。事業所全体では、年2回の職員研修を兼ねて、色々な意見交換をしている。	管理者は、毎日のミーティングで提案など聞いている。代表者が出席する会議でも意見を聞く機会を設けている。浴室で滑らないようゴムを敷いたり、椅子の高さを利用者に合わせるなどの意見を取り入れ改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の研修及び懇親会を兼ねて、情報交換やコミュニケーションを図り職員の考えを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を作って行っている、外部講習の案内も進めており、資格取得に向けた支援をがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他のグループホームを訪問するなど交流はある、一部の職員に限らずサービスの質の向上の為に同業者との交流は努めていきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス担当者介護を開き、本人・家族・管理者ケアマネ・介護職員等で、本人の要望・家族の要望等を確認しながら、サービスに反映し本人の不安を最小減にとどめる努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来た時に本人・家族の要望を聞きいれた上でサービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集して、今何が必要としているかを見極めて他のサービスが必要な場合は協力を支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、駄目な事は注意するようにしてそれぞれの得意分野で力を発揮してもらい、声掛けあい・助け合いで日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け相談に応じながらお互いに安心して生活できる様本人と家族の絆を深めて行けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問した際には、一緒にお茶を飲み面会・訪問しやすい雰囲気作りや近くの喫茶店やお買い物など安心して外出して頂いています	食事やくつろぐ時に、利用者の大切にしてきた関係などの話を聞いている。近所の人や同僚の訪問時には、茶菓でもてなし再度の訪問を依頼している。以前住んでいた所へドライブをしたり、手紙を出す支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事やレクレーション・作業療法などを通じて、利用者同士が関わりあい、孤立しない雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方も独居の方などは、色々相談に乗ったり、又退所した方も家族のいる方は、色々お野菜を頂いたりして、交流を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、日常生活の暮らしの希望に添えるよう努めています。出来ることは実践して頂き、生活に対しての不安がある為話を聞いたり、声掛けしています。	やりたい事・食べたい物・心の悩みや将来の不安などを、夜勤時に時間をかけて聞いている。困難な場合には、より関わりを多くして、態度やしぐさ・表情から思いの把握に努め、希望を叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者介護等で、本人・家族・ケアマネさんから、今までの経過を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の特徴を職員が把握し、利用者の動きや体調の変化にいち早く気づき現状を把握につとめている、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時に本人・家族・関係者等でサービス担当者会議を開き、その人の現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングをして、浮かび上がった課題をもとに見直しをしている。定期や変更時には、利用者・家族・職員・医師が参加するサービス担当者会議を開き、参加者からの意見を取り入れ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々について、日々個別に分譲記録を記入し気付いた時は、すぐに職員間で話し合い、工夫、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の現状により、本人・家族の要望に応じ理美容院の利用や近隣ケアの参加・ボランティア等の協力を得て支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花・野菜等を植えて、土いじりなどを楽しみながら収穫を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣接している為、家族も本人も安心して、何か異変があった時は早急に対応が出来るようになっている	併設の医療機関の患者が多い。本人・家族の納得の上、併設医院の協力医に変更する利用者もいる。他科への受診は家族の付き添いを基本としているが、職員が同行することもある。看護師が毎日利用者の状態を医師に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師さんとの連携も密にし、体調の変化に気付いた時は、看護師に連絡をして、適切な看護・受診が出来るように心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療ができ、何時でも入所が出来るようお部屋の確保はしておき、医療機関のケースワーカーさんとの連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方は、入所時に家族と話し合い、事業所で出来ることを説明して、方針を立てている。	入居時に事業所の方針を説明して同意を得ている。利用者の状態変化の都度、医師が説明をして、再度確認をとり方針を共有している。管理者・職員は、家族や他の利用者への配慮を含めた話し合いをしながら、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と初期の急変等について、情報を交換し、それを全職員で話し合い緊急に応急手当が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、避難経路の確保をして災害時の体制を全職員で把握している。運営会議でも議題にして話し合っている。	自治会長や民生委員の参加を得て避難訓練を行い、その後問題点を話し合っ、避難経路や避難場所の見直しをしている。併設の医療機関と合同訓練を行うこともあるが、夜間想定訓練が行われていない。	夜間を想定した避難訓練を必ず行われることを望む。災害時の近隣住民の協力依頼を引き続き働きかけ、さらに地域との協力関係を深めることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室になっており、プライバシーに配慮し入室時は必ずノックをし声掛けをする。人格を尊重して誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけています。	職員は、いろいろな経験をしてこられた利用者を人生の先輩として尊重している。自分が嫌だと思うことは行わない、言わない、話しや悩み事は居室で聞き他に漏らさないことを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、なんでも話せる関係作りをし、その中から本人の思いや、希望をきき、自己決定できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し見守りながら支援している食事等で時間のかかる人は焦らず食べて頂くように少し早目の食べて頂き、入浴は順番を教えてゆっくり入って頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回ぐるいのペースで美容院へ歩ける方は近くにある為、出向いていき、歩行困難な方の為に出張してもらい、身だしなみに気をつけている外出する時は、衣装を選んだり、お化粧をしたりして楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好物や食べたい物を尋ねて、出来る限りそれに比べられるよう努力している、季節の野菜を取り入れ目で楽しんでもらう、食器の後片付けは、当番制にしている。	利用者の希望や好みを聞いて献立をたて、買い物には毎日行き、新鮮な食材で調理をしている。職員は、準備や後片づけを利用者と一緒に行っているが、介助などで食事を共にすることもなく、弁当を持参している。	食事介助など大変さもあるが、利用者と職員と一緒に食事を楽しむことについて全職員で話し合い、食事を楽しむことのできる雰囲気作りを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は一人一人チェックをして、量が少ない場合は主治医に相談をしたり、水分量は一日の量がとれるよう、10時と3時にティータイムを設けて、摂取するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けして、出来る方は自分で歯磨きをし、出来ない方は、介助をしながらしていただき、又入れ歯のかたは、週1回ポリドントを使用し消毒しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、声掛けし誘導したり訴えがあれば何時でも介助をして、日中はオムツ外しに取り組んでいる。	一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握して、トイレへ誘導している。男性が、立位で排尿できるよう男性用の便器がある。夜間も出来る限りトイレで排泄出来るよう、利用者の様子や時間を見計らってトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて食物繊維を多く摂取し、乳製品のヨーグルトを入れたり水分補給をこまめにとり、運動不足にならない様に日課に体操を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている、体調や気分のすぐれない方は後日体調の良い日に介助が必要な方もプライバシーに配慮しながら安心して入浴して頂きます。	基本は週2回であるが、希望があればいつでも入浴できる。体調の良くない人や嫌がる人には、清拭をしたり、日をかえて入浴するように支援している。ゆず湯やしょうぶ湯などで入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置したあり、室温・風向き等の環境を整えている又日課として、気持ちよく眠れるように、天気の良い日は布団干しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従って、用法・用量を守って服用している。又体調の変化に気付いた時は、相即ドクターに報告し薬の変更があれば、そのつど、薬の用量を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にあった行事、花見、クリスマス会、個人の趣味(塗り絵、カレンダー作り、貼り絵、)等をやったり、洗濯ものをたたんだりして楽しんでいます時々喫茶店などにも外出しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや、花見に近くの公園まで出掛けたりしています。又家族のいらっしゃるかたは、定期的に家族が連れだって、喫茶店や買い物等に出かけています。	天気の良い日は近所や公園を散歩している。桜・藤・ハス・コスモスなどの名所に車いすの人も一緒に出かけている。家族の協力を得ながら、利用者の希望に添って喫茶店・美容院・外食などに行くこともある。	

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している自己管理出来るかたは、自分で財布を持ち出来ない方は、事務所のほうで預かり本人の希望を聞き買い物を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内に公衆電話を設置してあるので、自由に使用できる自分で、家族に手紙を書いたり、電話をで連絡を取り合っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花を生け、ホールには共同制作の作品を飾り、季節感が感じられる、台所が身近にあり料理の香りや音も楽しみである室内犬とのふれあいも癒しとなっている。	愛犬が遊ぶ居間に、みんなで作った季節の貼り絵や花などを飾り、中庭で花を育てたり、洗濯物を干したりして季節感や生活感を採り入れている。利用者の体に合わせたテーブルや椅子を置き、思い思いにくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で他の人との会話を楽しんだり、天気の良い日は、庭にでて、日向ぼっこをしながら、気の合った者同士会話が弾んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使いなれた家具を持って来て頂き好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がない様工夫している	テレビ・冷蔵庫・箆笥・洋服かけなど利用者が持参したものを自由に配置し、壁には絵・写真などを飾っている。遺影を置き毎日一番茶を供える利用者もあり、個々の思いに添った居室となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中ご自分の居室の掃除・洗濯・花壇の手入れや趣味等自分で出来ることはやって頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89		
自己評価作成日	平成25年12月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170500389-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し近隣との交流を深めるを理念に挨拶や会話を通じて親近感を持って頂けるよう実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会などに加入して、祭りなどの行事に参加そ地域の一員として溝掃除活動にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を活かし、自治会や民生委員さんを通じ近隣ケアの集いがある祭に、認知症への理解を求めて支援をお願いしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催してヒヤリハット等の問題点を話し合い、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの入居依頼の問い合わせや、社会福祉協議会の方たちと連絡を密にし、色々相談や要望をしたり、指導を受けたりして課題解決を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知徹底を図り、取り組んでいる。利用者に危険が伴う場合のみ家族に了承して頂き短時間のみ行う場合もある、玄関の施錠は利用者の安全を守るためやむを得ず施錠するときもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待がなされていないか、職員間で報告を密にして見過ごされる事がない様全職員で防止徹底を図っていく		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、市関係と相談をして、対処しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学に来たときに、一通りの説明をして、それで納得した上で入所の申し込みをして頂きます。改定の場合は文書にて送付させて頂きます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ふれあい箱」を設置して気軽に意見や要望を伝えることが出来る関係作りに努めています又行政機関等を利用して苦情を表せるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日1回ミーティングを開き意見を反映させている。事業所全体では、年2回の職員研修を兼ねて、色々な意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の研修及び懇親会を兼ねて、情報交換やコミュニケーションを図り職員の考えを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を作って行っている、外部講習の案内も進めており、資格取得に向けた支援をがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他のグループホームを訪問するなど交流はある、一部の職員に限らずサービスの質の向上の為に同業者との交流は努めていきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス担当者介護を開き、本人・家族・管理者ケアマネ・介護職員等で、本人の要望・家族の要望等を確認しながら、サービスに反映し本人の不安を最小減にとどめる努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来た時に本人・家族の要望を聞きいれた上でサービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から情報収集して、今何が必要としているかを見極めて他のサービスが必要な場合は協力を支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切に、駄目な事は注意するようにしてそれぞれの得意分野で力を発揮してもらい、声掛けあい・助け合いで日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や家族の要望に耳を傾け相談に応じながらお互いに安心して生活できる様本人と家族の絆を深めて行けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問した際には、一緒にお茶を飲み面会・訪問しやすい雰囲気作りや近くの喫茶店やお買い物など安心して外出して頂いています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との人間関係が上手く築けず、孤立してしまう方もいますが、行事やレクレーション・作業療法などを通じて、利用者同士が関わりあい、孤立しない雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方も独居の方などは、色々相談に乗ったり、又退所した方も家族のいる方は、色々お野菜を頂いたりして、交流を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、日常生活の暮らしの希望に添えるよう努めています。出来ることは実践して頂き、生活に対しての不安がある為話を聞いたり、声掛けしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者介護等で、本人・家族・ケアマネさんから、今までの経過を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の特徴を職員が把握し、利用者の動きや体調の変化にいち早く気づき現状お把握につとめている、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時に本人・家族・関係者等でサービス担当者会議を開き、その人の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々について、日々個別に分譲記録を記入し気付いた時は、すぐに職員間で話し合い、工夫、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の現状により、本人・家族の要望に応じ理美容院の利用や近隣ケアの参加・ボランティア等の協力を得て支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花・野菜等を植えて、土いじりなどを楽しみながら収穫を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療施設が隣接している為、家族も本人も安心して、何か異変があった時は早急に対応が出来るようになっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師さんとの連携も密にし、体調の変化に気付いた時は、看護師に連絡をして、適切な看護・受診が出来るように心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心んして治療ができ、何時でも入所が出来るようお部屋の確保はしておき、医療機関のケースワーカーさんとの連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方は、入所時に家族と話し合い、事業所で出来ることを説明して、方針を立てている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と初期の急変等について、情報を交換し、それを全職員で話し合い緊急に応急手当が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、避難経路の確保をして災害時の体制を全職員で把握している。運営会議でも議題にして話し合っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室になっており、プライバシーに配慮し入室時は必ずノックをし声掛けをする。人格を尊重して誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、なんでも話せる関係作りをし、その中から本人の思いや、希望をきき、自己決定できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し見守りながら支援している食事等で時間のかかる人は焦らず食べて頂くように少し早目の食べて頂き、入浴は順番を教えてゆっくり入って頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回ぐるいのペースで美容院へ歩ける方は近くにある為、出向いていき、歩行困難な方の為に出張してもらい、身だしなみに気をつけている外出する時は、衣装を選んだり、お化粧をしたりして楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好物や食べたい物を尋ねて、出来る限りそれに応えられるよう努力している、季節の野菜を取り入れ目で楽しんでもいただき、食器の後片付けは、当番制にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は一人一人チェックをして、量が少ない場合は主治医に相談をしたり、水分量は一日の量がとれるよう、10時と3時にティータイムを設けて、摂取するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けして、出来る方は自分で歯磨きをし、出来ない方は、介助をしながらしていただき、又入れ歯のかたは、週1回ポリドントを使用し消毒しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、声掛けし誘導したり訴えがあれば何時でも介助をして、日中はオムツ外しに取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて食物繊維を多く摂取し、乳製品のヨーグルトを入れたり水分補給をこまめにとり、運動不足にならない様に日課に体操を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、入浴する順番を決めている、体調や気分のすぐれない方は後日体調の良い日に介助が必要な方もプライバシーに配慮しながら安心して入浴して頂きます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置したあり、室温・風向き等の環境を整えている又日課として、気持ちよく眠れるように、天気の良い日は布団干しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従って、用法・用量を守って服用している。又体調の変化に気付いた時は、相即ドクターに報告し薬の変更があれば、そのつど、薬の用量を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節にあった行事、花見、クリスマス会、個人の趣味(塗り絵、カレンダー作り、貼り絵、)等をやったり、洗濯ものをたたんだりして楽しんでいます時々喫茶店などにも外出しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや、花見に近くの公園まで出掛けたりしています。又家族のいらっしゃるかは、定期的に家族が連れだって、喫茶店や買い物等に出かけています。		

グループホーム やすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援している 自己管理出来るかたは、自分で財布を持ち出来ない方は、事務所のほうで預かり本人の希望を聞き買い物を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内に公衆電話を設置してあるので、自由に使用できる自分で、家族に手紙を書いたり、電話をで連絡を取り合っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、四季折々の生け花を生け、ホールには共同制作の作品を飾り、季節感が感じられる、台所が身近にあり料理の香りや音も楽しみである室内犬とのふれあいも癒しとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で他の人との会話を楽しんだり、天気の良い日は、庭にでて、日向ぼっこをしながら、気の合った者同士会話が弾んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使いなれた家具を持って来て頂き好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅での生活と距離感がない様工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中ご自分の居室の掃除・洗濯・花壇の手入れや趣味等自分で出来ることはやっている。		